

実践のまとめ（中学校2学年 国語科）

授業公開日：令和3年11月30日

長岡市立宮内中学校

教諭 根津 礼子

1 研究テーマ

文章を批判的に捉えることのできる生徒の育成 ～「クリティカル・リーディングに挑戦」を通して～

2 研究テーマについて

（1）研究テーマ設定の意図

中学校学習指導要領（平成29年告示）では、国語科の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標として、「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」とあり、特に「伝え合う力を高めるとは、人間と人間の関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることである」と明記されている。

最近では氾濫するネット上の情報や、多様なメディアによる情報過多により、情報を受け取る私たち自身が情報を精選し、正しい情報とそうでない情報を見分ける力が求められている。あふれかえる情報に目を通し、その正誤を判断する能力を国語学習の中で身に付けさせていく。

そこで、本研究では、『動物園でできること』を教材として、説明文の内容を作者の主張やそれを裏付ける根拠・事例などを読み取る学習を通して、本文中から抜き出しても作者の主張を妨げない部分を見つけ出す学習を行う。この学習を通して、文章の構成上、必要な文章、なくても良い文章を見極め、文章の軽重を見抜く力を養うことにつなげたい。

（2）研究テーマに迫るために

- ① 本文の事例を複数の視点を基に、整理・要約し、筆者の主張を読み取る
文章中の三つの事例（オランウータン・ペンギン・エゾシカ）を「何を見せたいのか」「見せ方の工夫」「動物園が本当に伝えたいこと」の三つの視点をもって整理・要約することで、筆者の主張を理解させる。
- ② 説明文を批判的に読む「クリティカルリーディング」に挑戦させる
この説明文は23の形式段落から成り立っている。この段落の中には、筆者の主張に直接、影響しない段落（省略できる段落）がある。生徒には「説明文をコンパクトにしよう」という目的をもたせ、必要でない段落を抜き出す学習を行う。その中で、それぞれの段落が、筆者の主張に必要な不可欠な段落か否かを判断し批判的に読む学習を体験させる。

（3）研究テーマに関わる評価

- ① 三つの事例を三つの視点をもって整理・要約することができた生徒が8割以上になる。（ノート）

- ② 文章を批判的に読み、形式段落の中で、抜き出しても前後の内容が通じる段落を見つけ出し、根拠と共に述べることができた生徒が8割以上になる。(観察・ノート)

3 単元と指導計画

- (1) 単元名 文章を批判的に読む～クリティカル・リーディングに挑戦～
 教材名 「動物園でできること」奥山英登(三省堂2)

(2) 単元の目標

- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知識及び技能)
- 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)
- 教科書本文からなくしてもよい段落を見つける作業を通して、段落の重要性の軽重を見分け、文章全体を批判的に読もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元の評価規準

観点	評価規準
知識・技能	① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。(2)ア
思考・判断・表現	① 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(Cア) ② 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(Cエ) ③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。(Cオ)
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで主張と例示との関係などを捉え、学習課題にそって理解したことを説明しようとしている。 ② 教科書本文からなくしてもよい段落を見つける作業を通して、段落の重要性の軽重を見分け、文章を批判的に読もうとしている。

(4) 単元と生徒

① 単元について

本単元は、動物園に勤める筆者が、自身の飼育員としての実践をもとにして、動物

園の在り方について論じた評論文である。

筆者は、「オランウータンの展示」、「ペンギンの散歩」、「エゾシカの展示」を事例として取り上げ、動物園が「楽しみの場」であると同時に、「学びの場」にもなることを主張している。

このように、オランウータン、ペンギン、エゾシカの具体的な例示を行うことで、その主張に説得力をもたせている。例示の書かれ方が「何を見せたいのか」「どのように見せているのか」「本当に伝えたいことは」という内容で書かれている。生徒は、この例示の書かれ方を読み取り、その効果についても気付かせていく。また、生徒は筆者の論を読み取る中で、動物園や動物との共生について、新たな視点や考え方がもてるようになる。

② 生徒の実態 (31人)

一年生でも動物を扱う説明的文章は学んできたが、問いが手順を追って解き明かされる説明文であった。

二年生説明文「人間は他の星に住むことができるのか」では作者の問題提起に対して、例示となる仮説を検証し、まとめながら、最終的な主張をクラスの約9割が理解することができた。説明文「壁に残された伝言」では、文章の全体と部分との関係に着目して読み、読んで理解したことや考えたことを、知識や経験と結びつけ、クラスの8割が自分の考えを広めたり深めたりすることができた。説明文「100年後の水を守る」では文章と図表を結びつけて筆者の考えを捉え、7割程度の生徒が理解したことを知識や経験と結びつけて自分の考えをまとめた。

本単元では、文章の全体と部分との関係や、主張と例示との関係に注意して、筆者の主張を捉えさせたい。また、文章から抜き出しても支障のない形式段落を見つけることで、形式段落の文章中での役割を比較、検討させたい。

③ 指導の構想

ア 三つの事例（オランウータン・ペンギン・エゾシカ）を「何を見せたいのか」「見せ方の工夫」「動物園が本当に伝えたいこと」の三つの視点をもって整理・要約することで、筆者の主張を理解させる。

イ 文章から抜き出しても支障のない形式段落を見つける学習活動（クリティカルリーディング）を班で協働的に行わせるために、教科書本文を形式段落ごとに切り分けた短冊を用いることとする。順に並べた形式段落ごとの短冊を実際に動かし、省略できる段落を抜き、前後の段落のつながりを検討しやすいようにするためである。こうすることで、筆者の主張を伝えるうえで重要な役割をもつ段落と、そうでない段落を考え識別が容易になる。班で短冊をくっつけたり離したりする作業を通じて、班のメンバー全員が文章をまとまりとしてとらえることができるようにさせる。一人一人が「○○という接続詞があるから、ここは重要だ。」や「個々の段落は△△などの具体例が前の段落と内容が重複しているからこの段落は重要性が低い。」などの自分の意見を自由に述べることを期待できる。

(5) 指導と評価の計画 (全5時間 本時5/5時)

時数	学習活動	学習課題	評価規準と評価方法
1	○本文を通読し、全体の構成を捉える。 (段落番号をふる) ○本文を序論・本論・結論に分ける。	◎本文を通読し、全体の構成を序論・本論・結論に分けよう。	[知識・技能] 本文を内容から判断し、序論・本論・結論に分けることができる。筆者の問題提起を探ることができる。 (観察・ノート・教科書)
2	○動物園の「四つの大きな役割」についてまとめる。(序論の前段) ○序論の後段にタイトルをつけてみる。	◎動物園の「四つの大きな役割」についてまとめよう。(序論の前段) ・序論の後段にタイトルをつけてみよう。	[知識・技能] 動物園の四つの大きな役割を文章からまとめることができる。(観察・ノート)
3	○本論に出てくる三つ(オランウータン・ペンギン・エゾシカ)の事例について「何を見せたいのか」「見せ方の工夫」「本当に伝えたいこと」の観点でそれぞれ要約する。	◎三つの事例(オランウータン・ペンギン・エゾシカ)について、それぞれ「何を見せたいのか」「見せ方の工夫」「本当に伝えたいこと」の観点で内容を要約してみよう。	[思考・判断・表現] ② 三つの事例それぞれを三つの観点で整理要約することができる。(ノート)
4	○具体的に作者は私たちに何をしてほしいと主張しているか。 ○結論の中で一番大切な文を見つける。 ○最後の文で「私たち」「ともに」が出てくるのはなぜか。その根拠を文章中から探す。	・作者が読者に具体的にどんな行動を求めているかを文章中から探そう。 ◎最後の文で「私たち」「ともに」が出てくるのはなぜか。その根拠となる部分を文章中から見つけよう。	[思考・判断・表現] ③ 作者が結論として読者に伝え、行動に移してほしいことを文章中から探し、その根拠となる部分を見つける。結論の中で一番大切な文を探す。最後に野生動物だけではなく「私たち」「ともに」という記述が出てくる根拠を見つけることができる。(観察・ノート)
5	○全23の形式段落の中で、文章から抜いてもよい段落を見つけよう。(複数ある)	◎23の形式段落の中から文章から抜いてもよい段落を探す。(複数ある場合は優先順位をつ	[思考・判断・表現] ④ 全部で23ある形式段落の中で、筆者の主張を伝えるうえで、文章からなくても

	<p>場合は優先順位をつけて) (批評的な読み)</p>	<p>ける)</p>	<p>話の流れが通じる段落を探すことで、段落ごとの文章の必要性の軽重を見極めることができる。</p> <p>(観察・ノート)</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>23の形式段落の内容と重要性を比較し、その段落の軽重を見分け、根拠と共に述べようとしている。</p> <p>(観察)</p>
--	------------------------------	------------	---

4 本時の展開 (5/5時)

(1) ねらい

全部で23ある形式段落の中で、文章中から抜いても作者の主張に差し支えない部分を探す作業を通して、形式段落ごとのつながりや、段落の文章中の役割の軽重を見極めることができる。

(2) 展開の構想

本時では、まず前時にまとめた、筆者が読者に最終的に求めている行動や目指す在り方などを確認する。そのうえで、筆者が論を展開するうえで文章から抜いても論の流れに影響がない形式段落を文章中から探す。複数ある場合は抜いてもよい優先順位をつける。その段落を文章から抜いても問題ないのかを根拠をつけて発表させる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働きかけと予想される生徒の反応	□評価◇留意点 →「努力を要する」状況(C)への手立て
導入 (5分)	<p>本時の目当てを確認し、学習の見通しを持つ。</p>	<p>T: 前回考えた作者が読者に求めていることはなんでしたか?</p> <p>S: 私たちがこれから野生動物も含めた地球の生態系の一員として生き続けるために身近なところからできる取り組みを始めることだと思います。</p> <p>S: 私たち一人一人の普段の行動が野生動物も含めた地球環境にどう影響を与えるのかを意識して生活することだと思います。</p>	<p>◇前回までに学んだことを思い出させる。</p> <p>文章中から、抜き出しても筆者の主張の流れを変えない段落を見つけることができる。</p>

		T：◎では、今日は全部で23ある形式段落の中から、この文章からなくなっても筆者の主張が伝わる、文章からなくなってもかまわない形式段落を探して、その根拠と共に発表してみます。	
展開 (20分)	文章からなくなっても差し支えない形式段落を探す。その根拠も考える。 班の中で発表しあう。(理由も述べる)	T:文章からなくなっても筆者の主張が通じる形式段落を班で探しましょう。 段落ごとに切り分けた教科書本文の短冊を利用して考える。 S:14段落かなあ。 S:8・9段落もなくとも通じるよ。 S:どちらがよりなくとも通じるかなあ。 S:一番は14段落だね。 S:○班としての結論は14段落だね。	□〔思考・判断・表現〕 教科書本文からなくしてもよい段落を見つけているか。 (観察) →短冊を抜いても本文がつながるかを具体的に操作させる。
(15分)	班ごとの考えを発表する。 全体で考えを共有する。	T:では、1班から考えを根拠と共に発表してください。 S:14段落は動物園の飼育員としての取組を述べただけであって、野生動物の生態とは関係ないため、文章から抜き出しても作者の主張を妨げないと思います。 S:8・9段落も、その前の段落の補助的な内容であるため、特になくともよい段落だと考えます。	
まとめ (10分)	自分の考えをまとめ、本時の学習を振り返る。	T:班の人の意見やクラスの意見を受けて、最終的な自分の考えを書きましょう。またその根拠も書きましょう。 S:14段落は野生動物にふれていないため、文章の大きな流れには必要ない内容だと思う。 S:8・9段落はその前の段落とほぼ同じ内容を述べているため、文章からなくなっても主張を邪魔しないと思う。	〔思考・判断・表現〕 自分の記述をもとにしたり、友達の考えを取り入れたりしながら、自分の考えをまとめている。(ノート) →黒板を示しながら自分が最も納得のいく最終的な結論や説明を書かせるようにする。

(4) 評価

筆者の考えや周りの意見を参考に、最終的に必要ないと考える段落について、自分なりの意見・根拠をまとめることができる。(ノートの記述)

5 実践を振り返って

(1) 成果

① 本文の事例を複数の視点を基に、整理・要約し筆者の主張を読み取ることについて
文章中の三つの事例(オランウータン・ペンギン・エゾシカ)を「何を見せたいのか」「見せ方の工夫」「動物園が本当に伝えたいこと」の三つの視点をもって整理・要約することで、筆者の主張を理解させることができた。動物園の具体的な展示例がどのような意図をもって示され、訪れた観客の関心を引くことを通じて、野生動物の生育環境、ひいては地球環境に人類が与える行動の相関関係についてともに考える姿勢を生むことができた。また、生徒自身が内容ごとに文章を整理・要約することで、主体的に文章を理解することにつながった。

② 説明文を批判的に読む「クリティカルリーディング」に挑戦させることについて
本時では、まずは班で23の形式段落の短冊を使って、その中から文章からなくても通じる段落を探すことから始めた。形式段落ごとに23枚に切り分けた短冊を抜き出してみたり、前後をつなげてみたりする作業を通じて、前後の文章のつながりや、その段落の果たす役割の大小について吟味していた。生徒の多くは、前回までの内容のまとめや、段落ごとのつながりを意識してそれぞれの段落の重要性や、その段落が文章になくても、前後の内容が通じる段落を探すことができた。大小のホワイトボードを班ごとに二枚ずつ使用することで、班で出た意見をメモすることと、出てきた意見を発表用にまとめるボードを分けて考えることができた。

(2) 課題

ホワイトボードを使った班ごとの発表では、班ごとに重複した内容があった場合には、「どの班も〇〇段落はなくてもいいと考えたようでしたね。」や、「では〇〇段落は文章からなくしても前後の文章が通じる段落ととらえてよいのでしょうか？」などの教師の働きかけでクラスの共通理解につなげることができたと思った。ホワイトボードに各班の意見が出そろった時点で、各班の共通点や違うところ、なぜ重複した意見が出るのかに焦点を当てて話し合いにつなげることで、授業時間内に生徒の中で解決することができた。また、予定していた時間内で班ごとの考えをまとめることができずに、考える時間を延ばす必要があったことや、班ごとの発表時間が長くなってしまったことも課題である。